

ANALISIS KONTRASTIF RAGAM HORMAT BAHASA JEPANG (*KEIGO*) DENGAN *KRAMA* BAHASA JAWA

DELVI SIVA ANANDA

43131.52019.0030

STBA JIA

2023

ABSTRAKSI

Penelitian ini membahas tentang perbandingan dua bahasa atau lebih dengan tujuan untuk mendeskripsikan padanan yang terdapat dalam *keigo* dan *krama* berdasarkan situasi dalam percakapan. Penelitian ini menggunakan teori analisis kontrastif Tarigan untuk membandingkan satu jenis data dengan lainnya baik *keigo* maupun *krama*. Penelitian ini menggunakan metode padan yang termasuk dalam lingkup penelitian deskriptif kualitatif untuk menemukan padanan kedua bahasa yang dibandingkan dan kemudian menggunakan pengamatan untuk mengumpulkan data. Hasil penelitian ini terdapat 15 data yang dapat dipadankan dalam penggunaan ragam hormat pada bahasa Jepang dan bahasa Jawa. Dalam bahasa Jepang ragam hormat dibagi menjadi dua, yaitu: *Sonkeigo*, dan *Kenjougo*. Sementara itu, dalam bahasa Jawa dibagi menjadi dua, yaitu: *Krama Inggil*, dan *Krama Andhap*. *Sonkeigo* dan *Krama Inggil* memiliki fungsi untuk menyatakan hormat secara langsung dengan meninggikan lawan bicara. *Kenjougo* dan *Krama Andhap* memiliki fungsi untuk menyatakan hormat dengan merendahkan diri sendiri kepada lawan bicara.

Kata Kunci: Analisis kontrastif, *Keigo*, *Krama*.

日本語の敬語とジャワ語のクラマの対照分析

DELVI SIVA ANANDA

43131520190030

STBA JIA

2023

要旨

本研究は、二つ以上の言語の比較について論じるものであり、会話の状況に基づいて、敬語と仮名に見られる同等性を記述することを目的としている。本研究では、タリガンの対照分析の理論を用い、あるタイプのデータと別のタイプのデータを比較する。本研究では、質的記述研究の範囲に含まれる相応法を用いて、比較対象となる二つの言語の同等性を見出し、観察によってデータを収集する。その結果、日本語とジャワ語の敬語の使い方が一致する15個のデータが得られた。日本語の敬語は二つに分けられる：日本語の敬語は「そんけいご」と「けんじょうご」に分けられる。一方、ジャワ語では二つに分けられる：クラマ・イングギル」と「クラマ・アンダップ」である。ソんケイゴとクラマ・イングギルには、相手を持ち上げて直接敬意を表す機能がある。ケンジョウゴとクラマ・アンドハップは、相手に対して身を低くして敬意を表す機能を持つ。

キーワード : 対照分析、敬語、クラマ

第一章

初めに

A. 背景

日本語の尊敬語は敬語とも呼ばれる。敬語とは、相手や相手に対する敬意を表す言葉である (Sudjianto, 2007, 188)。敬語のレベルには、そんけい語と謙譲語がある。尊敬語は、直接的に相手や話題の人を敬う、つまり相手の程度を上げるために使われるさまざまな言葉であり、謙譲語は、間接的に相手や話題の人を敬う、つまり話し手自身の立場を下げるために使われる言葉である。

日本語と同じように、ジャワ語にも敬語がある。この敬語の多様性は、ジャワ語ではしばしば *Unggah-ungguh* バサまたは *Undha-Usuk* バサと呼ばれる。クラマは *Unggah-Ungguh* バサの形のひとつである。クラマは、話し手が相手や議論している人に敬意を示すために使う表現である。クラマには、クラマ・ルグ (クラマ、マディア、ンゴコで構成されるジャワ語の会話レベル) とクラマアルス (クラマ語彙で構成される会話レベル) の2種類がある (Sasangka, 2004, 95-111)。

インドネシアにおける対照分析に関する研究としては、Tarigan (1992)の研究が挙げられる。この論文は、言語教師が第一言語と第二言語の特徴をよりよく理解するための手段として、対照分析を強調している。母語の影響を受けている第二言語学習者が使用する形を観察することによって。寺田貴尚は、敬語を対話者や第三者に対する敬意を表す言語と呼んでいる (Sudjianto, 2009, 189)。基本的に敬語は、一人称 (話し手や書き手) で使われる言葉を洗練させ、二人称 (聞き手や読み手) や三人称 (話題の相手) を尊重するために使われる。

B. 問題の定式化と問題の焦点

1. 日本語とジャワ語の敬語の使い分けは？
2. 日本人とジャワ人のリスペクトの状況は？

第二章

理論的な基礎

A. 対照分析

対照言語学は、日本語では「対照言語学」または「比較言語学」と呼ばれ、二つの異なる言語の類似点と相違点を説明することを目的としている。類似点と相違点の説明は、第二言語（外国語）として二つの言語を教える際に役立つ。(Sutedi in Santoso, 2015, 19) は、二つの言語の類似点と相違点を説明することで、両方の言語の学習者に母語の影響によって引き起こされる言語エラー（ごよう）を減らし、さらにはなくすことができると論じている。

対照分析とは、二つ以上の言語に見られる顕著な相違点や非類似点を探す研究である (Tarigan, 1992, 226)。対照分析の目的は、比較される二つの言語に存在する具体的な相違点に注目し、それを分析して言語の類似点を見つけることである。

B. 日本の敬語

敬語は日本語の特徴のひとつである。敬語に似た言語表現はインドネシア語にはない。そのため、インドネシア語を母語とする日本人学習者の多くは、敬語を学んだり使ったりすることが難しいと感じている (Sudjianto, 1999, 146)。

寺田孝直 (Sudjianto, 1984, 238 所収) は、敬語を相手や第三者への敬意を表す言語と呼んでいる。これとほぼ同じ意見で、敬語とは聞き手や会話の主体である人物の程度を上げる言語表現であるとする人もいる (野村 in Sudjianto, 1992, 54)。敬語は、話し手や書き手が、聞き手や読み手、あるいは会話の主体である人物のことを考えて使う丁寧な表現である (小川 in Sudjianto, 1989, 227)。

C. ジャワの敬愛品種 (クラマ)

Unggah-Ungguh では、ジャワ語はジャワ社会に存在し、ジャワの人々が今でも使っている言語である。すべての言語にはさまざまなバリエーションがあり、ジャワ語にはユニークで複雑なバリエーションがある。ジャワ語のウンガウンガは、ジャワ社会の言語における作法である。これは、*Unggah-Ungguh* は、行動と言語の両方において、誰かを礼儀正しくすることができるのと彼らが信じているからである。

Unggah-Ungguh (ジャワ語) の発話レベルは、ンゴコ (*ngoko*)、マディア (*madya*)、クラマ (*krama*) の3つに分けられる。この3つの発話レベルは、現在でも9つの形態に分類されている。ンゴコ語のレベルはンゴコ・ルゲー、バサ・アンティヤ、アンティヤバサに分けられ、マディア語のレベルはマディア・ンゴコ、マディアンタラ、マディア・クラマに分けられ、クラマ語のレベルはムダ・クラマ、クラマンタラ、ブレダ・クラマに分けられる。Poedjasoedarma の記述 (Sasangka, 2019 所収)

では、*kramantara* と *wreda krama* の発話レベルはほとんど聞かれないとされている。Poedjasoedarma の意見は Purwo (1991)によっても踏襲された。Purwo もジャワ語の発話レベルを *ngoko*、*madya*、*krama* に分けた。



第三章

研究方法

A. 研究方法

本研究で筆者が用いた研究は記述的質的研究である。質的研究とは、数字による記述ではなく、言葉や文章による記述の形で分析結果を提供する研究である。Bogdan and Taylor (1992) (in Rizal, 2022, 9)は、質的方法とは、観察可能な人々や行為者から書き言葉や話し言葉の形で記述的データを生み出す研究手順であると定義している。この研究では、筆者は比較される言語を完全かつ詳細に比較しなければならない。この調査は2023年3月から2023年10月まで行われた。そして、この調査は研究者の自宅とSTBA JIAブカシで行われた。

B. 調査手順

研究を円滑かつ構造化して実行できるようにするための研究の手順または段階である。ステージは、初期段階、実装段階、最終段階の3つに分けられる。研究者が最初に行うことは、タイトルを選びし、研究デザインを作成し、研究に関連する理論や参考文献を探し、提案を行い、それを提案セミナーに提出することである。実装フェーズでは、研究者はデータソースを監視して理解し、分析のためにデータをグループ化し、監督者にガイダンスを提供してきた。最終段階では、研究者は報告を行い、研究結果について話し合い、結論を出しである。

C. データ収集

本研究で用いたデータ収集技法は観察技法である。観察とは、調査対象の症状を体系的に観察し、記録することによるデータ収集ツールである (Narubuko and Achmadi in Marita, 2014)。本研究で使用したデータは、傾聴法に続いてノートテイキング法を用いて得られたものである。リスニング法とノートテイキング法で研究者が用いたデータ収集技法は、日本語とジャワ語に相当するマンガや小説を読むこと、日本語とジャワ語に相当するデータを収集すること、日本語とジャワ語に相当するデータを記録することである。

D. データ分析方法

本研究で用いた分析技法は、あるデータと別のデータを比較するペアリング法 (Mahsun, 2005, 376) を基本技法とし、日本語の敬語種 (*Keigo*) とジャワ語の敬語種 (*Krama*) の比較関係技法を用いた。この段階では、小説『ピナトリ・イング・テレン・アティ』と『ジャヤ・バヤ三世九月』で日本語とジャワ語の研究に使用される複数のマンガ『ナースステーション9』と『12』、『謎解きはディナーのあとで』、『私のしあわせな結婚』、『カノジョはきれいだった』からデータを収集し、

データ分析プロセスを実施する。研究者は日本語とジャワ語のデータを直接配置し、次に研究者はどのデータが本当に必要で、どれが必要でないかをコンパイルし、分類し、決定する。そして収集したデータを分析し、得られたデータから結論を導き出す。



第四章

データ分析

A. 敬語の使い方と敬意あるジャワ語（クラマ）の使用

カテゴリ：尊敬語とクラマ *Inggil*

状況 (1)

竹沢 : 竹沢と申しますか。
中山さんいらっしゃいますか。

状況 (2)

Minten : Pak Hadi?!

Pak Hadi : He-eh Ten. Kaget ya?

Minten : **Wonten** kersa menapa Pak?

上の会話の中「いらっしゃいますか」という言葉があるが、この敬語は「いらっしゃいます」という特殊な動詞形を使っている。ジャワ語の *krama inggil* "wonten" と比較すると、どちらも「ada」という意味である。

カテゴリ：謙譲語とクラマ *Andhap*

状況 (1)

景山 : ではわたくしはショウレイさんと船上デートでも
して参りますゆえ。

カザマツリ : いやいやいやぜひ一緒に捜査をしようじゃないか
名探偵。

状況 (2)

Pak Hadi : Kabar dibenumku iki kudu daksampekne marang
Piyambake, osike batine Hadi. Lan ing dina sing
Dianggeb prayoga dheweke merlokake menyang
Mojokerto, **sowan** menyang daleme tilas ibu kost-e
Iku.

上の会話の中で参ります。これは「来る」という言葉に由来する、ジャワ語の *krama andhap* “sowan” と比較すると、どちらも「datang」という意味である。

第五章 結論と提案

A. 結論

1. 日本のマンガとジャワの小説を分析した結果、日本語とジャワ語の敬語が一致するデータは15個あった。尊敬語はクラマ・インギルに相当する敬語を持っており、これは相手（対話者）を高めて敬意を示すために使われる敬語である。一方、謙讓語はクラマ・アンダップと対になり、自分を卑下することで自尊心を表す形となる。
2. その結果、敬語と言葉の使い分けを決定する状況として、社会的関係、親近感、年齢などさまざまな要因があることがわかった。

B. 提案

1. 著者は今後の研究者に、他の言語との対照分析研究を行うことを提案している。また、学校（教師と生徒の間）、レストラン（ウェイターと客の間）など、さまざまな状況におけるさまざまなタイプの敬語を議論することに重点を置くことが望まれる。また、漫画や小説だけでなく、歌や映画などでも研究を進めるべきである。
2. 日本語学習者にとって、言語の質は必須条件であるが、より深い知識を持つ言語学の研究能力は、決して置き去りにできないものである。なぜなら、本質的に言語学は学習者が広げ、深めることのできる知識の窓となりうるからである。